

マーケット動向を踏まえ 適切なアドバイスを 実践しよう

波 乱に満ちた2025年が、ようやく終わりを迎える。年初に華々しく返り咲いた米国のトランプ大統領は、自国の産業を守るため各国に高関税を課す「トランプ関税」を推進。これにより米国株は大きく下落したが、その後は急速に回復し、過去最高値を記録する。株価指数は、1年を通じてジェットコースターのような動きをみせた。2026年の動向は不明だが、同様の大きな変動もあり得る。

日本では円安と物価高騰が長引く中、先述のトランプ関税による影響が不安視されたが、影響は限定的だった。その後、高市内閣が誕生。新たな経済政策として「サナエノミクス」が打ち出され、「責任ある積極財政」による経済力強化が標榜されている。一方、目下、長期金利の指標となる新発10年債利回りは上昇

市場予測はあくまでも「シナリオ」

し、2%に迫っている。我々の身近な暮らしに目を向けると、2025年は日用品や食品を中心に価格高騰が著しかった。前年に続いて米価格は高止まりをみせ、調味料、酒類、ティッシュ、コーヒ、鶏肉、乳製品、トマト、タマネギなど多品目が値上げた2025年。苦しい思いをした人も、多いのではないだろうか。

らは日本株に期待できるので、おすすめですよ」というようなアドバイスはできない。しかし、資産を国内株式、外国株式、国内債券、外国債券、REIT等に分散させることは、長期的に大きなメリットになり得る。金融機関の担当者にできることは、市場予測をあくまでも「シナリオ」としてとらえたうえで、お客様に情報提供を行うことである。そして、お客様の年齢や収入、人生設計などに応じて、より適切な提案を行うことが大切だ。お客様のリスク許容度も、重要なポイントである。お客様が安全性を重視しているのか、利回りを期待しているのかによっても、提案できる資産配分は変わってくる。ときには必要に応じて資産配分の見直しなども提案しつつ、顧客本位の営業活動を行いたい。

特集

物価高局面での 投信アドバイスの 手引き

マーケットの見通しを踏まえた フォロー&提案

